

佐藤 信隆 サトウ ノブタカ 45歳

生年月日 1972年5月18日

所属 山梨大学医学部整形外科



略歴

1991年3月 桐蔭学園高等学校普通科 卒業

1999年3月 山梨医科大学 卒業

1999年5月 山梨医科大学医学部整形外科入局

2000年4月～2005年3月 みつわ台総合病院（千葉県）、嶋崎病院（茨城県）、あけぼの医療福祉センター（山梨県）、鯉沢病院（山梨県）、富士吉田市立病院（山梨県）、湯村温泉病院（山梨県）で医局ローテーターとして整形外科研修

2005年4月 山梨大学医学部附属病院

2008年4月～9月 よしだ病院（新潟県）

2008年10月 山梨大学医学部附属病院

2009年4月 山梨大学医学部 整形外科 助教

2010年4月～2012年3月 医局長

2012年6月～2016年10月 臨床教育センター 副センター長（兼任）

2015年6月 医学博士（論文博士）取得

（Thrombin induced by the extrinsic pathway and PAR-1 regulated inflammation at the site of fracture repair. Bone. 2016）

2018年4月 国立病院機構甲府病院 勤務予定

資格

医学博士

日本整形外科学会専門医

日本手外科学会専門医

臨床研修指導医

日本医師会認定産業医

役職

日本手外科学会 代議員

東日本整形災害外科学会 評議員

所属学会

日本整形外科学会、日本手外科学会、東日本整形災害外科学会、関東整形災害外科学会、末梢神経学会、創外固定学会、日本肘関節学会

マイクロサージャリー学会

演題名：

Dupuytren 拘縮に対する当科での治療経験

【はじめに】

Dupuytren 拘縮の歴史と治療方法並びに、当科で治療した手術例と酵素注射療法例を提示し、臨床成績について報告する。

【対象と方法】

手術群は可及的病的腱膜切除を施行。対象は 2005 年から 2015 年までの 48 例、97 指、酵素注射療群は 2016 年 12 月以降に 50 例、73 指に対して行った。

【結果】

手術群では Meyerding 分類 grade I・II・III の手術成績は Tubiana の評価基準で very good・good 100%・85.7%・90.9%であった。拘縮改善率は MP 91.3%、PIP 79.6%であった。環指・小指 PIP の拘縮改善率が最も低かった。

酵素療法群では拘縮改善率は MP 87.1%、PIP 71.9%であった。副作用として、注射部位皮下出血 47 件(94%)、注射部位腫脹 41 件(82%)、裂創 12 件(24%)を認めた。

【考察・結語】

治療成績は諸家の報告と同等であった。PIP 関節高度拘縮例に対する手術、神経血管束周辺への注射には工夫を要した。処置後のスプリントの併用と作業療法士による可動域訓練の指導が治療成績に有用と考えられた。